



お知らせ

子どもたちの大切な“いのち”を守るために 早期発見キャンペーンを世界中で展開しよう

※本リリースは SIOP と ICCCP O が発信した世界共通のリリースを日本語訳したものです。

2012年2月15日ジュネーブ発:

2月15日の今日は国際小児がんデーである。SIOP(国際小児がん学会)とICCCPO(小児がん親の会国際連盟)は、小児がんの予兆をより早く発見するにはどうしたらよいか、社会啓発のための“草の根健康支援キャンペーン”を展開する。

毎年、世界で175,000人の子どもたちががんの診断を受け、そのうち90,000人の命が失われていると推定されているものの、この数字は確実ではない。小児がん登録制度のない国が多いだけでなく、国によっては、小児がんであるという正しい診断がつくことすらないという現状があるためである。正しい診断と早期の治療さえ実現すれば70%の子どもたちの命が救われるにもかかわらず、この現実を考えると、ただ呆然とするばかりである。

先進国では、小児がんはこどもの死亡原因の第2位を占め、西欧や東アジア、そして白人種が多い地域では、急性リンパ性白血病が最も多いのに反して、アフリカ諸国ではマラリアやエプスタインバールウィルスの感染に関連したバーキットリンパ腫がリンパ腫全体の半分を占めている。

「がんのはじめの頃の兆候は風邪などの軽い病気と似通っていることがよくある」と語るのはSIOPの会長であるDr. Gabriele Calaminusである。

以下のような兆候が、いつまでも改善されなかったり、繰り返すような場合、小児がんを疑う必要がある:

- 眼が白く光る、斜視、視力障害、眼球突出
- 腹部/骨盤/頭部や首/四肢/精巣/分泌腺などにしこりがふれる
- 原因不明の発熱が2週間以上続く
- 体重減少に加えて顔色が悪い、疲れやすい、あざができやすかったり、出血しやすい
- 骨や関節、また背中中の痛みがあり、骨折しやすい
- 神経学的な兆候: 歩行、バランス感覚、あるいは発話能力の変化など、発育・発達過程で到達されるべき能力が退行する。
- 2週間以上続く頭痛。嘔吐や頭のサイズが大きくなる場合もある。

「このような症状が見られた場合、すぐに医師や資格のある医療従事者の診察を受ける必要がある」と Dr. Calaminus は続ける。

今夜、夕食を囲む一日の終わりには、どこかの家族の息子、娘、きょうだいに(推定 440 人)、この命にかかわる病気の診断がつき、世界中で 250 人(推定)の子どもたちの命が奪われようとしている。「子どもが“がん”になること、それは苦しみが伴うことではあっても、子どもとその家族にとっては、希望と勇気をもたらすものであり、そして決断…生と死という正反対のものに立ち向かうことでもあるのです。」と話す ICCGPO 会長 Kenneth Dollman は、自身の子どもに白血病の診断がつき、治療を終了した小児がん経験者の親でもある。

経済的に豊かな国では 80%の子どもたちが治癒しているものの、治療手段や財源の乏しい状況にある国々の実態は全く異なる。小児がん治療の効果を期待できる段階での発見ができないだけでなく、小児がんに関する知識・情報の不足や欠如、また、発見できても適切な治療に辿りつけるのはごく限られた者という状況も多々見られる。その結果、およそ 80%の子どもたちが命を落とすことになる。

南アフリカの親の一人である Dollman はこう説明する。「診断の遅れは生存率を著しく低下させます。財政や治療手段が豊かな国では 10 人のうち 8 人が治癒するというのに、国民の収入が中、あるいは低という国々ではわずか 2, 3 人の子どもしか生き延びることができないのです」。

さらに、小児がんを取り巻く俗説も正しい情報の普及を阻んでいる。たとえば、網膜芽細胞腫の子どもに診られる”猫目反射(眼が猫のように白く光る)”を超自然能力としてみなす国もあり、そのような子どもは治療されないままとなり、その結果、手遅れとなる。

今日では、SIOP と ICCGPO は世界中の仲間たちと共に、各地域に、学校に、病院に、そして一般社会全体に手を差し伸べようとしており、小児がんの子ども親たちも、小児腫瘍専門医、小児科医、看護師、公衆衛生支援者やそのほかの支援者と共に、小児がんに関する重要な情報を広めている。お住まいの地域での活動に関するお問い合わせは、以下までご連絡ください。

日本での連絡先

(財)がんの子供を守る会: **本部事務局**

〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-3-12 TEL:03-5825-6311(代表)

<http://www.ccaj-found.or.jp/>

SIOP Asia: 事務局

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町 666-2 TEL: 043-264-5431

<http://siop-asia.com/ja/>

SIOP と ICCCPPO では“小児がんの初期症状”に関するジョイントキャンペーンを展開しており詳細は各団体のウェブに掲載している。SIOP: www.siop.nl ICCCPPO: www.icccppo.org

国際小児がん学会(SIOP)について

がんの診断がついた小児及び若年成人に伴う諸問題を研究、解決しようと 1969 年設立された会員数 1500 名を超える世界的な学会である。“がんで死亡する子どもをなくす”ことを目標に、SIOP は以下を使命とする:

- 1) がんの診断がついた小児や若年成人のすべてが最新の治療およびケアを受けることができるようにする。
- 2) 小児がんに関連する世界中の人々が、会議やネットワークを通して最先端の医療を知ることができるようにし、医療従事者はさらなる発展を目指し努力し続けることを約束する。
- 3) 最良の治癒および緩和技術の提供による小児がんの子どもと若年成人への支援を行う。
- 4) 治療終了後の小児や若年成人への適切な長期フォローアップの支援を行う。

SIOP は Dr. Gabrielle Calaminus を会長とした理事会で構成され、ジュネーブ(スイス)に本部を置く。ホームページは www.siop.nl

SIOP への連絡先: JJ Divino, MPH

Communications and External Relations

International Society of Paediatric Oncology

Geneva, Switzerland

tel: 0041 22 906 9123 email: jdivino@kenes.com

国際小児がん親の会連盟(ICCCPO)について

ICCCPO は小児がんの子どもを持つ親の会としては世界最大の団体である。医療者や家族が、そしてより広い地域社会も、小児がんの子どもとその家族が直面する短期的/長期的問題に関してよく理解し、診断時、そしてそれ以後、世界中のどこにいても可能な限り、最良の治療を受けることができることを願っている。そのために ICCCPPO では、情報や積み上げてきた経験をすべての家族と共有することを使命としている。

ICCCPO への連絡先: Marianne Naafs-Wilstra

c/o VOKK Schouwstede 2B, 3431 JB Nieuweges NETHERLANDS

Tel: +31 30 242 2944 icccpo-secretariat@vokk.nl